

「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」の見直しについて

1 目的

「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」（以下「教育委員会点検・評価」という。）については、令和 7 年度に策定した教育委員会の分野別個別計画（「第 4 次学校教育振興基本計画」、「第 4 次特別支援教育実施計画」、「第 7 次生涯学習推進計画」、「第 4 次図書館基本計画」、「第 5 次子ども読書活動推進計画」）において、施策体系が変更したことから、評価体系の見直し等を行う。

2 見直し内容について

（1）評価する活動・施策の単位について【別紙①参照】

ア 「教育委員会活動」の点検・評価

「教育委員会活動」については、定例的に開催する会議（教育委員会定例会・総合教育会議）の開催状況（回数や案件、傍聴者数）等を指標としたうえで活動の評価しているが、他の施策と異なり、達成目標の設定になじみにくく、評価しづらかったことから、「教育委員会の運営に関すること」「教育委員会と市長等との連携に関すること」の 2 つの活動を、点検・評価の対象から除外することとし、会議の開催状況等については、別途、参考資料として掲載する。

【参考】多摩 26 市中、「教育委員会活動」を点検・評価の対象としている団体は 2 市。

イ 「教育委員会施策」の点検・評価

令和 7 年度に策定した教育委員会の分野別個別計画（「第 4 次学校教育振興基本計画」、「第 4 次特別支援教育実施計画」、「第 7 次生涯学習推進計画」、「第 4 次図書館基本計画」、「第 5 次子ども読書活動推進計画」）において、施策体系が変更されたことを踏まえ、変更後の施策単位（基本施策等）ごとに点検・評価することが適切かつ効果的であることから、これまでの「19 単位」から「23 単位」に変更する。

(2) 点検・評価表について【別紙②参照】

ア 文字のフォント

ユニバーサルデザイン (UD) フォントに統一し、多くの人に分かりやすく、読みやすい表記に見直す。

イ 「です・ます」調の表記

丁寧で親しみやすい表記に見直す。

ウ 構成の見直し

「主な取組」と「取組状況」の二項目を、「取組内容」として一項目に整理することで、より分かりやすく、簡素化を図る。

「評価」を踏まえ「次年度の方向性」を示す流れとすることから、「次年度の方向性」を最下部に移行する。

3 今後のスケジュール（予定）

令和7年11月 教育委員会定例会にて、見直し（案）協議

12月 教育委員会定例会にて、見直し（案）協議

令和8年 1月 教育委員会定例会にて、見直し（案）決定

2月 新様式による点検・評価表（令和7年度分）事務局案の作成開始

4月 教育委員会定例会にて、点検評価方針の協議

（以後、通常のスケジュールで進める）

教育委員会点検・評価見直しについて（案）

●活動・施策一覧について（案）

新

個別計画	番号	活動・施策
教育委員会活動	0-1	教育委員会の研鑽・視察に関すること
第4次 学校教育振興基本計画 (第4次 特別支援教育実施計画)	1	学力・体力の向上
	2	豊かな心を育む教育の推進
	3	円滑な教育活動の推進
	4	教職員の適正配置と環境整備
	5	連続性のある多様な学びの場と支援の充実
	6	学校における指導の充実
	7	相談・連携体制の充実
	8	教育環境の整備
	9	就学の機会と安全・安心の確保
	10	児童・生徒の保健衛生の推進
	11	学校給食事業の適切な運営
	12	安全・安心な給食の提供と食育の充実
	13	総合的な教育行政の企画と推進
	14	学校施設環境の維持管理と充実
第7次 生涯学習推進計画	15	いつでも、だれでも学べる身近な学習環境の整備
	16	学びの裾野を広げる学習情報・学習施設の活用
	17	立川のまちを知り、育てる学びの推進
	18	社会教育人材の育成とネットワーク
第4次 図書館基本計画	19	図書館サービスの充実
	20	子どもの読書環境の充実 ※
	21	情報収集と課題解決支援の充実
第5次 子ども読書活動推進計画	22	多様な利用者の読書機会の確保
	23	図書館施設・機能の充実
計 24		

旧

個別計画	番号	活動・施策
教育委員会活動	0-1	教育委員会の運営に関すること
	0-2	教育委員会と市長等との連携に関すること
	0-3	教育委員会の研鑽・視察に関すること
第3次 学校教育振興基本計画 (第3次 特別支援教育実施計画)	1	学力の向上
	2	豊かな心を育むための教育の推進
	3	体力の向上と健康づくりの促進
	4	特別支援教育の推進
	5	学校運営の充実
	6	教育環境の充実
	7	ネットワーク型の学校経営システムの構築
	8	幼保小中連携の推進
	9	児童・生徒の安全・安心の確保
第6次 生涯学習推進計画	10	いつでも、だれでも学べる身近な学習環境の整備
	11	市民ニーズに合わせた生涯学習情報の提供
	12	地域人材と学習施設の有効活用
第3次 図書館基本計画	13	学びと課題解決を支援する図書館
	14	くらしに役立ち利用しやすい図書館
	15	図書館の効率的・効果的な運営
第4次 子ども読書活動推進計画	16	家庭や地域での取組
	17	学校と学校図書館の取組
	18	立川市図書館の取組
	19	すべての子どもが読書できる環境づくりへの取組
計 22		

※ 「第5次子ども読書活動推進計画」は、「第4次図書館基本計画」における『取組施策：子どもの読書環境の充実』をより具現化した計画であることから、当該取組施策に集約した形で点検・評価する。

●教育委員会施策の点検・評価表について（案）

新

旧

<第4次学校教育振興基本計画>

施策	1	学力・体力の向上	担当課	指導課
----	---	----------	-----	-----

1 施策の目的

目的	児童・生徒に基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る教育を推進します。生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、それらを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を育てるために、教員の授業力の向上及び学びの質を高める事業を展開します。
----	--

2 当該年度の達成目標

達成目標	教員の研修・研究の充実により教育力の向上を図るとともに、教科担任制やICTの活用、学力調査等の分析等、各取組による授業改善を進め、児童・生徒の学力の向上を目指します。
------	---

3 取組状況と成果と課題

取組状況	各学校が課題を踏まえたテーマを設定し、研究を進め、立川市教育委員会や各学校の教育目標の実現に向け、学習指導力や学校組織力の向上に資する取組を推進し、各学校が課題を踏まえたテーマを設定し研究を進めました。算数・数学科や外国語科において、習熟度別指導加配教員制度を活用し、少人数集団による児童・生徒の習熟の程度に応じたきめ細かい学習指導の充実を図った。体験型英語学習施設(Tokyo Global Gateway)を活用した英語学習を小学校に加え、中学校でも実施しました。 市内全小・中学校において、作成した授業改善推進プランに基づく授業改善を図り、児童・生徒の実態に即したより分かる授業の実施に努めました。
成果	校内研究の推進や教職員研修の充実により、全国学力・学習状況調査の平均正答率は小学校・算数、中学校・国語及び数学において全国平均に対する到達度が100%を超えました。 小学校の主に高学年における教科担任制の推進により、「授業がよく分かる」と肯定的に捉えている児童が〇〇%でした。
課題	校内研究や教職員研修により得た情報等について、校内に還元するとともに、効果的な取組について自校に生かしていく必要があります。

4 評価

評価	A	評価理由	全国学力・学習状況調査の結果や、校内研究の取組、教職員研修などから、各学校がそれぞれの成果を教育活動に生かし、継続的に授業改善に努めていることが分かります。学校評価における児童・生徒の「授業がよく分かる」の割合も88.9%という評価であり、A評価としました。	参考
				7年度8年度9年度10年度11年度
				A

5 次年度の方向性

次年度の方向性	校内研究の取組を充実させるとともに、東京都の研究推進モデル校等を活用しながら、各学校の学習指導力や学校組織力の向上に資する取組を推進していきます。 Tokyo Global Gatewayでの体験事業を小学校と中学校の全校で引き続き実施し、外国語教育の充実と国際理解教育の推進を図ります。
---------	---

「取組状況」に集約

「次年度の方向性」を最下部に

<第3次学校教育振興基本計画>

施策	1	学力の向上	統括課	指導課
----	---	-------	-----	-----

1 目的

目的	児童・生徒に基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る教育を推進する。生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、それらを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を育てるために、教員の授業力の向上及び学びの質を高める事業を展開する。
----	--

2 当該年度の達成目標

達成目標	教員の研修・研究の充実により教育力の向上を図るとともに、教科担任制やICTの活用、学力調査等の分析等、各取組による授業改善を進め、児童・生徒の学力の向上を目指す。
------	---

3 取組状況と成果と課題

主な取組	校内研究の推進、研修の充実、学習支援の充実、理科教育の充実、外国語・外国語活動の充実、ICTの活用の推進
取組状況	各学校が課題を踏まえたテーマを設定し、研究を進め、立川市教育委員会や各学校の教育目標の実現に向け、学習指導力や学校組織力の向上に資する取組を推進し、各学校が課題を踏まえたテーマを設定し研究を進めた。算数・数学科や外国語科において、習熟度別指導加配教員制度を活用し、少人数集団による児童・生徒の習熟の程度に応じたきめ細かい学習指導の充実を図った。体験型英語学習施設(Tokyo Global Gateway)を活用した英語学習を小学校に加え、中学校でも実施した。
成果	校内研究の推進や教職員研修の充実により、全国学力・学習状況調査の平均正答率は小学校・算数、中学校・国語及び数学において全国平均に対する到達度が100%を超えた。 小学校の主に高学年における教科担任制の推進により、「授業がよく分かる」と肯定的に捉えている児童が90.4%であった。
課題	校内研究や教職員研修により得た情報等について、校内に還元するとともに、効果的な取組について自校に生かしていく必要がある。

4 次年度の方向性

次年度の方向性	校内研究の取組を充実させるとともに、東京都の研究推進モデル校等を活用しながら、各学校の学習指導力や学校組織力の向上に資する取組を推進していく。 Tokyo Global Gatewayでの体験事業を小学校と中学校の全校で引き続き実施し、外国語教育の充実と国際理解教育の推進を図る。
---------	---

5 評価

評価	A	評価理由	全国学力・学習状況調査の結果や、校内研究の取組、教職員研修などから、各学校がそれぞれの成果を教育活動に生かし、継続的に授業改善に努めていることが分かる。学校評価における児童・生徒の「授業がよく分かる」の割合も88.9%という評価であり、A評価とした。	参考
				2年度3年度4年度5年度
				A A A A